

件名	平成29年度第2回道の駅「北条公園」運営連絡協議会について
日時	平成30年3月15日(木) 午後7時～午後8時30分
場所	北栄町中央公民館 2階 大研修室

標記の件について、下記のとおり。

1-1. あいさつ(会長)

- ・意見集約を行い、良い会にしていただきたい。

2. 経過報告について

- ・平成29年度第1回協議会以降経過報告

3. 意見集約について

- ・意見公募結果報告

4. 基本構想(案)について(意見反映状況の報告、確認)

- ・本日は、概要版をもって、第1回協議会意見、意見公募結果の反映状況に重点を置き、ご説明させていただきたい。
- ・目的・コンセプトについては、砂丘地農業に留まらず、白砂青松、オートキャンプ場をはじめとしたアウトドア等の充実を図ることで、広く北条砂丘の魅力を最大限に発揮させる仕組みの構築と地域活性化を図りたい。
- ・持続可能な道の駅を実現するため、北条道路の整備を起爆剤とした、町外からの入込客数の増加を一つの大きな要素と捉え、道の駅を起点とした地域内循環、地域内交流システムの構築を図りたい。
- ・道の駅と周辺地域の課題解決策として、平成28年に発生した鳥取県中部地震をはじめ、近年の記録的大雪による立ち往生等が発生する中において、交通結節点である道の駅「北条公園」を、基地となりうる防災拠点として、機能付加を図りたい。
- ・町内2か所ある道の駅については、各道の駅の魅力を最大限に発揮するため、道の駅「大栄」を観光・文化の発信拠点、道の駅「北条公園」を農業振興拠点とそれぞれ位置付け、両者の棲み分けを図る一方で、道の駅「大栄」における観光満喫後は、道の駅「北条公園」における北条砂丘の味覚、充実空間の堪能による周遊性の実現をもって両者の連携を図りたい。
- ・図面提示  
主な変更点、追加点
  - ・白砂青松を活かした多様なアウトドア体験の充実(デイキャンプ、キャンプファイア、海辺のデッキテラスの設置)
  - ・遊び場の確保(室内遊具、アスレチック遊具の設置、  
※スケートリンクについては、近隣施設の経営状況が芳し

くないこと、採算性が見込めないことから、反映は困難と判断した。

- ・ 宿泊施設の確保  
(トラベルトレーラー、簡易宿泊施設の設置)
  - ・ 防災施設の確保(備蓄倉庫、災害用トイレの設置)
  - ・ 砂丘まつり時の駐車場確保(臨時駐車場の設置)
  - ・ 効率的な動線配置(周遊性の確保)
  - ・ スケジュール説明
- ※変更点：国交省をはじめとする関係機関との協議・調整期間の追加  
協議後、1年目の基本設計・地形測量に着手

## 【質疑応答】

### 委員1

- ・ 別紙構想図(案)は、協議会の中で議論されたという扱いになるか否か。通常、施設の必要範囲を決定する場合、こういった整備をするのかというメニューを決定後、必要面積を算出し、レイアウトを行う。その後、全体の必要面積、買収面積を決定する。個々の施設について、必要面積が計算されていない中、面積決定がなされていることが気になるところである。特に、国は道路利用者のための駐車場、トイレ、情報提供施設、休憩施設を整備負担するため、駐車ますの必要数等議論されていない中、改修されるということがこの協議会の中で位置付けられるということが気になる。

町→2ページでお示ししているものが、本日協議されるものとなる。別紙については、こういったものがあれば、地域を盛上げることが可能となる等、話合いを行ってきた中で意見を具体化したものであり、今後これを基に道路利用者等に必要なものを選択と集中を図りながら、必要面積を算出していきたいと考えている。

### 委員1

- ・ 道の駅は、そこで完結するものではなく、そこを起点として、体験活動を行うことにより、町内の活性化を図る役割を担っている。道の駅利用者が、単にトイレ、或いは、物販のみの使用とならないよう、まずは、道の駅に入ると情報コーナーを経由し、トイレ、物販に行ける動線の構築をすることで、自ずと町内の情報が目に入ってくる仕組みとなり、町内への誘導がスムーズに図られる契機となる。
- ・ 現在の道の駅は、様々なことができる道の駅としては良い反面、全体を道の駅と位置付けてしまうことで、西側から来た方は、北側トイレのみの利用となる仕組みとなってしまう。  
道の駅とその他施設をはっきりと区別し、道の駅にどの施

設を取込むかをしっかりと議論していただいた方が良いのではないか。

町→おっしゃられたことが重要だと考えている。道の駅に立寄られた方に対する情報発信の在り方が、道路利用者の更なる町内目的地への橋渡しの鍵となってくる。本日の資料の中に、目標入込客数を空白で入れさせていただいている。上記のような波及効果も含めた上で、この道の駅が果たす役割を根底に据え、先程の議論を進めていかなければならないと考えている。町内全体の入込客数から見た道の駅「北条公園」の役割も考えていく必要があると考えている。

#### 委員 2

- ・応募意見が5名しかないことが残念である。北条地区の知人に、道の駅「北条公園」が整備されることを知っているか尋ねた際、「知らない」と回答した方がいた。広報が不足しているのではないか。もっと多くの意見聴取を行った方が良いのではないか。
- ・自治会へ不確かな状態の時が良いので、説明を行うことはできないか。

#### 委員 3

- ・逆にたたき台もない中で、出向くのはいかなものかと考える。毎月町報も発行されており、道の駅についても町報、議会広報、町放送を通じて何度も情報提供されており、必要な事は行っておられる。

#### 委員 2

- ・やることをやっておられることは知っている。しかし、文句を言う者は、聞いていないと言うものだ。自治会でも同様である。
- ・この案については、非常に色々考えられた良い案だと拍手したい。
- ・防災とはどういった意味合いか。道路の除雪のみか。津波はいかなものか。災害トイレとはどういったものか。自転車を利用し、町内を循環させてはいかなものか。
- ・○自治会の間は、浜に逃げるといった感覚がない。

町→現在の道の駅「北条公園」については、町地域防災計画の中で、火災、地震の一時避難場所として位置付けられている。そこに、大雪の際の回避施設等防災計画と摺合わせを行いながら、機能付加を図りたいと考えている。津波の避難施設については、江北公民館、江北浜多目的研修集会施設がその場所となっている。災害用トイレについては、マンホール上にテントを張り、便座を設けることで災害時に、トイレ機能を確保できる仕組みとなっており、下水道に流すものである。仮に遮断さ

れた場合には、数日貯めておけるものとなっている。

#### 委員 2

- ・北条川放水路に橋が掛けられないか。東と西の浜を往来するのに不便である。
- 町→道の駅整備との関係性、必要性が見出せない。

#### 委員 3

- ・29年度が、1年目となるか。
- 町→29年度で一旦の基本構想を作成したいと考えている。
- 1年目を迎える前段として、国交省をはじめとした関係機関との調整等を図りたいと考えている。それが、ある程度固まってきた段階で、1年目に向かいたいと考えている。現在は、皆さんの夢や、取入れた方が良いものを形にしている。ここから道路利用者等のために必要不可欠なものについて選択と集中を行う中で、必要面積等を固めていきたいと考えている。

#### 委員 4

- ・宿泊施設はベッドか。
- 町→詳細については、今後、協議するが、案としていただいたご意見を整備してはとどうかと考えているところである。北栄町には、宿泊施設が少ないという中において、アウトドアに限らず様々な選択肢が広がるということ  
で反映させていただいている。

#### 委員 3

- ・北側にも宿泊機能があり、南側にもというのほどのような意図か。
- 町→北エリアについては、アウトドアをテーマとしており、テント、コテージ等多様な形態での宿泊を想定している。南エリアについては、ホテルに近い簡易宿泊施設を想定しており、両者の棲み分けを図っているところである。
- 南側については、併せてドライバーが気軽に宿泊できることも想定している。

#### 委員 5

- ・北条は、ブドウが主であり、大栄でもイチゴを生産しているが、観光農園として周遊させてはいいかがか。そういったシステムの構築を図ることで、町内の入込客数を増加させることが可能となるのではないか。現在の観光農園は、観光客から見ても分かりにくい部分があるのではないか。

町→本町農業の魅力を知っていただくためには、食していただくことが一番の契機となる。南エリアのレストランでは、北栄町産農産物を使用した料理を提供し、町内の魅力のある場所へ誘導できればと考えており、一体感を持って進めていければと考えている。

委員 3

・フルーツドームが使用されていないが、ブドウテラスとは、どういったものか。

町→ブドウテラスについては、ブドウが繁茂しているイメージであり、雰囲気作りを想定している。

委員 2

・職員が常駐している総合案内所が必要ではないか。看板での入込みは見込めないのではないか。

町→情報の出し方については、ある程度、人の力も必要と感じている。

委員 2

・指定管理者がもっと営業をしないといけないのではないか。

町→今後の運営の在り方についても、検討していきたいと考えている。

委員 2

・南側が国交省のエリアか。

町→それについても、未だ決定していない。

委員 2

・道の駅は、道路から南側か。

町→現在の道の駅は、北側のキャンプ場も含め、道の駅として登録している。

委員 2

・現在描いている範囲が、現在のエリアか。

町→今描いているエリアについては、新規エリアであり、現在のエリアではない。

但し、ご意見を反映すると現在の範囲に収まらないことから、お示しした範囲となっている。しかし、範囲については、必要、不必要も含め、今後検討していくものである。

委員 5

・子どもが来ると親が付いてくるため、子どもへのアンケートを検討していた  
きたい。

平成 29 年度

第 2 回道の駅「北条公園」運営連絡協議会

日 時 平成 30 年 3 月 15 日(木)  
午後 7 時～

会 場 北栄町中央公民館  
2 階 大研修室  
(北栄町土下 112 番地 )

- 1 あいさつ
- 2 経過報告について
- 3 意見集約について
- 4 基本構想(案)について
- 5 その他

**【担当】**

北栄町産業振興課 農商工推進室

担当：阪本

〒689-2292

住所：北栄町由良宿 423 番地 1

TEL：0858-37-3153 FAX：0858-37-5339

E-mail：(一 般)[c-sakamoto@e-hokuei.net](mailto:c-sakamoto@e-hokuei.net)

(官公庁)[c-sakamoto@town.hokuei.lg.jp](mailto:c-sakamoto@town.hokuei.lg.jp)

## 2 経過報告

### (1) 経過

平成 27 年度

- ・ 3 月 道の駅「北条公園」運営連絡協議会設立準備会開催

平成 28 年度

- ・ 8 月 第 1 回道の駅「北条公園」運営連絡協議会開催
- ・ 1 月 第 2 回道の駅「北条公園」運営連絡協議会開催
- ・ 2 月 山陰道「北条道路」（はわい IC～大栄東伯 IC 間）都市計画決定

平成 29 年度

- ・ 4 月 道の駅「北条公園」再整備に係る土地所有者説明会  
道の駅「北条公園」再整備に係る基本構想策定業務委託契約締結
- ・ 8 月 (株)PLANT 出店断念意向表明
- 8 月 道の駅「北条公園」再整備に係る基本構想再検討
- ・ 12 月 平成 29 年度第 1 回道の駅「北条公園」運営連絡協議会開催  
道の駅「北条公園」再整備に係る土地所有者説明会開催

# 道の駅「北条公園」再整備について（案）

## 道の駅「北条公園」の現状



〔特産物販売店〕

### 〔概要〕

名称：道の駅 北条公園  
 登録日：平成5年11月24日  
 所在地：北栄町国坂1525番地92  
 立地：国道9号及び国道313号の結節点に位置し、  
 国道を隔てて南北に施設を配置

### 〔構成施設の現状〕

構成施設：（北部）飲食店（うどん屋、焼肉屋、ジェラート店）、直売所、オートキャンプ場、トイレ  
 （南部）飲食店（定食屋）、直売所、コミュニティ施設、大規模駐車場、トイレ

入込客数：（平成17年） 86,334 人  
 （北・南）（平成27年） 44,719 人  
 （平成28年） 40,255 人

- ・施設の老朽化に伴う、入込客数減
- ・砂丘地活性化に繋がる交流の拠点の実現が困難



〔屋内体育福祉施設「希望の館」〕

## 持続可能な道の駅の実現

道の駅北条公園：高規格道路（山陰道）の整備を起爆剤とした、町外からのお客様の入込みを充実  
 道の駅を起点とした町内への入込客の地域内循環、地域内交流を実現

## 道の駅と周辺地域の課題

### 【道の駅】

- ・山陰道整備（高架化）に伴う、立寄率の減少
- ・施設老朽化等に伴う、入込客数の減
- ・道の駅が南北に分断されることに伴う、滞在時間の減（国道9号）

### 【周辺地域】

- ・砂丘地の基幹産業である農業の衰退  
 農家数：1,160 → 882（△24%）  
 就農人口：2,559 → 1,688（△34%）  
 就農者60歳以上構成比率  
 北条地域71.9% → 82% 大栄地域60.6% → 69.1%  
 ※ 平成17年 → 平成27年の数値
- ・悪天候時の子どもの遊び場がない
- ・高齢者の買物困難
- ・大雪時の立ち往生

## 再整備に期待する効果

- ①女性と子どもが楽しめる仕組み作りによる女性と子どもの来場者数増
- ②農家がより意欲的に農業に取り組める仕組み作りの実現
- ③オートキャンプ場をはじめとした構成施設整備による入込客数、宿泊者数増
- ④幹線道路の要所に位置し、大雪をはじめとする災害時の防災拠点  
 →目標入込客数 万人

## 目的・コンセプト・テーマ

【目的（まちづくりビジョン（げんきなまちづくり）を実現すること）】 **北条砂丘（農業と自然）から北栄町を『元気』にすること**

【コンセプト（目的を達成するために施設が担う役割）】 **地域に愛され北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点**

【テーマ（再整備全体で一貫して表現すること）】 **北条砂丘のめぐみ**

## 北栄町の『元気』とは

- ・農産物及び加工品生産者の生産・販売に対する意欲が高まり、消費者が積極的に購入したいと思える状態
- ・施設整備による観光客滞在時間の延伸に伴う物理的・経済的な賑わいの創出が生まれる状態（アウトドア、宿泊施設）

## 『北条砂丘のめぐみ』とは

現在の北条砂丘を構成する魅力的なもの  
 自然、歴史、景観（※白砂青松）、農業、人等

## 北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点とは（食・遊）

- 農業をしている方もこれからする方も「農業がしたくなる」（食） -
- 〔要素〕
- ・生産者と消費者が繋がる（顔が見え、評価を聞ける仕組み作りを実現）
- ・ライフスタイルに合わせ、新しいことへの挑戦が可能
- ・農産物の味わいを発信・堪能することが可能
- ・所得向上を実現
- ・耕作放棄地減少を実現（新規就農者の増、耕作面積の維持・増加）等

- 多様な「アウトドア体験がしたくなる」（遊） -

- 〔要素〕
- ・多様なアウトドア体験が可能
  - ・美しい海岸を活用した充実空間の実現が可能
  - ・白砂青松と北条砂丘を堪能できる宿泊施設の使用が可能

## 道の駅「大栄」と「北条公園」の棲み分け・連携

### 道の駅「大栄」

#### ○観光・文化の発信拠点 棲み分け

- ・青山剛昌ふるさと館に隣接し、由良駅まで続くコナン通りの玄関口としての観光拠点
- ・由良台場に隣接し、北栄町の歴史や文化の発信拠点

- 歴史・文化、観光を通じた交流拠点 - - 農業・環境を通じた交流拠点 -

### 道の駅「北条公園」

#### ○農業のまち北栄町の振興拠点

- ・町民の生活を育んできた北条砂丘に位置し、北栄町の『農業』を町内・外へ発信する情報発信拠点
- ・農業に付随し、風車をシンボルとした環境の循環型社会拠点

※大雪をはじめとする災害時の防災拠点

#### 連携 道の駅「大栄・北条公園」の周遊性を実現

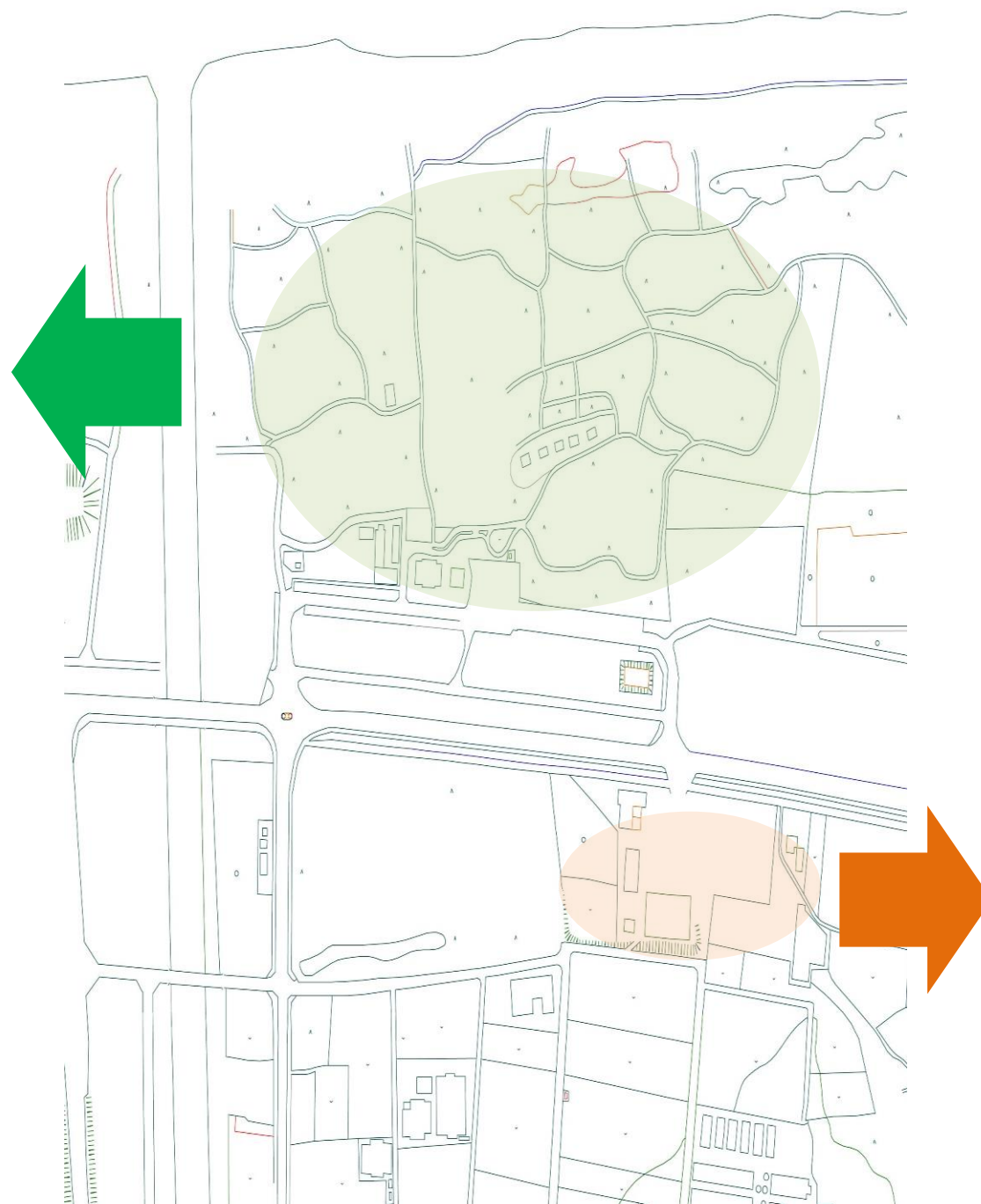
- ・道の駅「大栄」において、コナン通り、国史跡由良台場をはじめとする観光を楽しんだ後は、道の駅「北条公園」で農業のまち北栄町の味覚を堪能。一日の終わりは、それぞれに合った宿泊の形でゆったりと北栄町の日を満喫。朝晩は、一面に広がる白砂青松に癒されながら一人ひとりの充実空間を堪能。

- 農業-（地域共通）



## 道の駅「北条公園」整備計画構想図（案）

導入施設
一般テントサイト
トラベルトレーラーサイト
バンガロー
バーベキューサイト
キャンプ広場（キャンプファイアサークル）
海辺のデッキテラス（夏季シーズン設置）
RVパーク
駐車場
ドッグラン
アスレチック遊具
芝生広場
売店
軽食コーナー
情報コーナー
トイレ



導入施設
レストラン
物販コーナー
簡易宿泊施設
ブドウ棚テラス
トイレ
屋根付多目的広場（広場・屋内遊具）
芝生広場
コンビネーション遊具
大型すべり台
足湯
防災備蓄倉庫
災害用トイレ
休憩・情報コーナー
飲食コーナー
トイレ
駐車場

# 道の駅「北条公園」整備スケジュール（案）

